日本語要約

ロタウィルス下痢症は温帯地域では著明な冬のピークを認め夏には患者をほぼ認めないが、熱帯地域では一年を通して患者を認めることが知られている。先行研究では気温や湿度などの気象因子と患者数との関連が報告されているが、季節により変化する他の環境因子や行動パターンなどの交絡因子を調整しておらず、真の直接的関連については未だ明らかにされていない。本論文はバングラデシュ・ダッカ市内の下痢症専門病院における過去 6 年間の患者データを用いて時系列解析をおこない、交絡因子を調整したうえで気象因子と週別ロタウィルス下痢症患者数との関連を検討した。その結果過去 4 週間の平均気温が 29 度以上で 1 度上昇する毎に患者数が 40.2%増加すると推定された。相対湿度と患者数は負の直線的関連を認めた。本研究の結果は、WHO がおこなう地球温暖化に伴う下痢症による健康負荷を推定するための根拠として使用されることが期待される。